

目指す社会像

総合的な安全保障の実現

解決すべき
社会課題

- 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する（SDGsの14）
- 総合的な安全保障の実現/我が国の安全保障をめぐる環境は一層厳しさを増している（基本計画）
- 宇宙空間や海洋空間における人間活動の活発化に伴う脅威（基本計画）

次期SIP
課題候補

【5 海洋安全保障プラットフォームの構築】

世界有数の海洋国家である我が国にとって安全保障上重要な海洋の保全や利活用を進めるため、海洋の各種データを収集し、資源・エネルギーの確保、気候変動への対応などを推進するプラットフォームを構築する。

必要と考えられる
基盤技術、共通
システム、ルール
などの例

＜事例＞ ※次期SIPターゲット領域有識者検討会議の有識者や委託調査等で得られた事例。RFIで提案いただく研究開発テーマはこれらに限られないが、この程度の粒度での提案を期待。

- 国内での環境観測・計測機器の開発
- 観測・操作AUVシステム
- 海洋上のデータ通信インフラ
- 海洋に閉じない地球観測データPF
- 海洋デジタルツイン
- 大水深掘削技術、レアアース泥からの抽出技術
- 大規模CO2貯留・固定化技術
- 海中CO2回収技術、海中CO2センサ技術、CO2シミュレータ
- 国際的枠組みとの整合
- 水産資源との連携

参考となる施策 関連文献等

- **「持続可能な海洋経済の構築に向けたハイレベル・パネル」（2018年～ 主要海洋国家首脳）**
 - 2025年までに持続可能な海洋計画に沿って、国家管轄権内の海洋区域の100%を持続可能な形で管理することにコミット。2030年までに同計画を策定するよう沿岸・海洋国家に呼びかけ
- **「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」（2021年～ 国連）**
 - SDGsに直結する7つの社会的目標（「きれいな海」「健全で回復力のある海」「予測できる海」「生産的な海」「安全な海」「万人に開かれた海」「夢のある魅力的な海」）を定め、海洋科学を強力に推進することにより、直面する課題の解決を目指す
- **「海洋基本計画 第3期」（平成30年 内閣府）**
 - 「新たな海洋立国への挑戦」を本計画の政策の方向性として位置付け
 - 「総合的な海洋の安全保障」及び海洋の主要施策（①海洋の産業利用②海洋環境③科学的知見④北極政策⑤国際連携・国際協力⑥海洋人材・国民の理解）の基本的な方針を提示
- **「国家安全保障戦略」（平成25年 内閣府）**
 - 我が国がとるべき国家安全保障上の戦略的アプローチの一つに「（4）海洋安全保障の確保」を位置づけ
 - シーレーンにおける海上交通の安全の確保、海洋監視能力の強化、国際的ネットワークの構築を重視
- **「海洋エネルギー・鉱物資源開発計画」（平成31年 資源エネルギー庁）**
 - 資源国やシーレーンにおける情勢変化等を背景としたエネルギー・鉱物資源供給不安に直面するリスクを指摘
 - 石油・天然ガス、メタンハイドレートや海底熱水鉱床の活用のための研究開発計画を提示
- **「第6次エネルギー基本計画」（令和3年 資源エネルギー庁）**
 - 2050年カーボンニュートラルに向け、2030年度の目標に向けた取組を更に拡大・深化させエネルギーの脱炭素化を進めつつ、現時点では社会実装されていない脱炭素技術を開発・普及させていく（洋上風力を含む）
- **「水産基本計画」（平成29年 水産庁）**
 - 国内の資源管理の高度化と国際的な資源管理のための施策の一つとして「漁場環境の保全と生態系の維持」を掲げ、具体的には「イ 生物多様性に配慮した漁業の推進」「オ 気候変動の影響への対応」を提示

第3期海洋基本計画 概要 海洋政策のあり方

総合的な海洋の安全保障

①海洋の安全保障

防衛、法執行、外交、海上交通における安全対策、
海洋由来の自然災害への対応

②海洋の安全保障の強化に貢献する基層

(a) 基盤となる施策

海洋状況把握(MDA)体制の確立

国境離島の保全・管理

海洋調査、海洋観測

科学技術、研究開発

人材育成、理解増進

(b) 補強となる施策

経済安全保障

海洋環境の保全等

出典：

https://www8.cao.go.jp/ocean/policies/plan/plan03/pdf/plan03_gaiyou_1.pdf